

慶讚法会
参拝のしおり

第三十三代

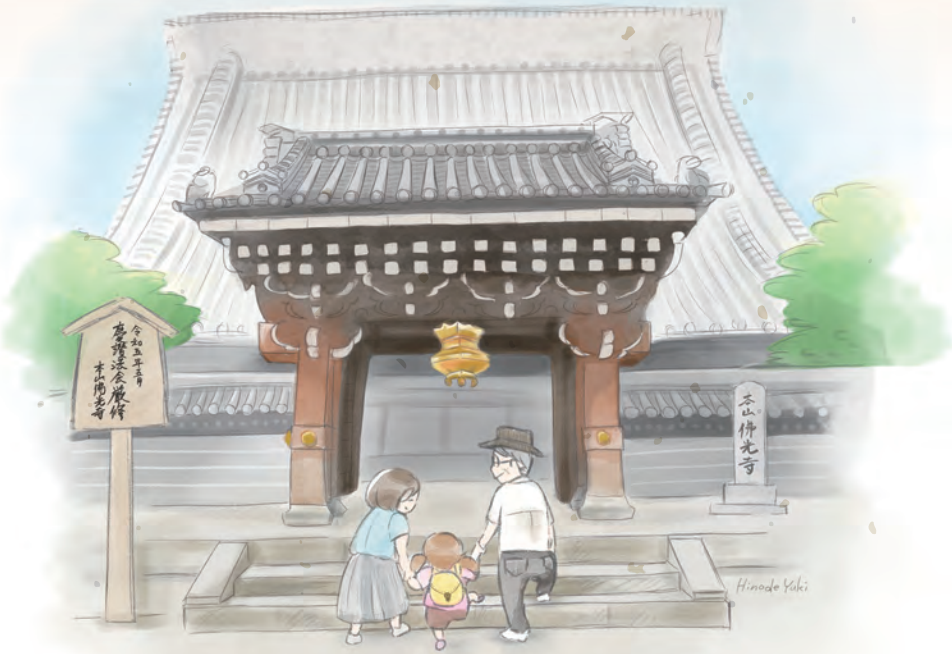
真覚門主伝灯奉告法要

親鸞聖人御誕生八五〇年法要

立教開宗八〇〇年法要

聖徳太子一四〇〇回忌法要

本山
佛光寺





ようこそ 本山佛光寺へ

本日は、慶讃法会にお参りくださり、ありがとうございます。

慶讃法会とは、宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年法要、立教開宗八〇〇年法要、聖徳太子一四〇〇回忌法要、そして第三十三代真覚門主伝灯奉告法要の総称です。

この度の法要は、基本理念「大悲に生きる人とあう 願いに生きる人となる」のもと、御門主様の「伝灯奉告法要」を軸としてお勤めさせていただきます。

「伝灯奉告法要」とは、御門主様が、阿弥陀如来と宗祖親鸞聖人の尊前で佛光寺第三十三代の法灯を継承されたことを奉告される大切な法要儀式です。

私たちもまた、この法要を勝縁として御門主様と共なる佛光寺派の門徒としての新たな歩みを始めさせていただきます、先人からお伝えいただいたお念仏のみ教えをお聞かせいただきましょう。そしてその慶びを次世代に伝えてまいりますよ。

ようこそお参りくださいました。

本山 佛光寺

今の時代を生きる

みなさまへ



第三十三代門主
渋谷 真覚

本日は、「心のふるさと」であります
本山佛光寺にようこそお参りくださ
いました。

本山佛光寺は、親鸞聖人と出遇え、
おみのりをいただくこの身の幸せを喜
べる所であります。

私自身を振り返つてみますと、幼い
頃からお念仏を身近に聞き、時折、聴
聞の場に座り、ご門徒の方から温かい
お声がけをいただきました。そして母
からの「お仏飯でお育てをいただいて
…」という言葉を聞きながら育つてま
いました。

しかし、そのありがたみは、当時は、
理解できていなかったように思いま
す。そして私自身、悩む事も多く、背
負えるものも放棄するように、遠回り
をしてきました。

ところが、父、真承上人の御遷化を
縁として、仏様の方を向くようにな
り、その学びの中で、仏様の眼差しに
涙があふれそうになるほどの喜びを

感じたことを覚えています。遠回りを
していたこの私を、そのまま受け止め
てくださった仏様のお慈悲に、ようや
く出遇えた喜びでした。

不思議なもので、この私の同じ目、
同じ心で触れる日常の出来事が、いつ
の間にか違う景色になつてきたように
思います。阿弥陀様の智慧の光に照ら
されて、生かされて生きている幸せで
あります。

今、悩み苦しみ、辛い思いをされて
いる方に、私は伝えたいのです。「とに
かくお寺の門をくぐつてみてくださ
い。そして阿弥陀様の前に座つてみま
せんか」と。

あなたにとつてお寺が、人生の節々
を生涯にわたつて喜ぶことのできるか
けがえのない場となることを、声を大
にして伝えていきたいものです。

本日の法要がその機縁となります
よう念ずるところであります。

「慶讃法会」をお迎えして

宗務総長 八木 浄顯

本日は本山佛光寺による
こそお参りくださいました。

今から百年前に真宗十
派が共同歩調で立教開宗
七百年をお勤めいたしました。
その記念事業の一環
として歌を作ることにな
り、応募された詞の中から
「真宗宗歌」が誕生しまし
た。以降百年にわたって
「深きみ法のりにあいまつ
る・・・」と歌い継がれてい
ます。
深きみ法とは本願念仏
のみ教えです。誰一人漏ら
さず救うお念仏に遇いなが
ら幸せを他に求め、あくせ
くしている私がいまます。

慶讃法会の「慶きやう」はすで
に確かな救いの真只中にあ
ることを喜ぶことです。こ
の度の法要をご縁として、
六字のみ名を称え、日々の
生活を大切にしたいもの
です。

真覚御門主様が親鸞聖
人から受け継がれた法灯
を高く掲げられました。
「真宗宗歌」の三番は「浄土
の旅を共にせん」で終わり
ます。
先行きの不透明な世に
あつても、お念仏と共に次
の世代に繋つながっていく浄土
への道を歩ませていただき
ましょつ。

基本理念

大悲に生きる

人どあう

願いに生きる

人となる

私たちの生活は、人工知
能(AI)をはじめとするテ
クノロジーの発展により、想
像もつかないほど便利にな
りました。

ところが、相変わらず心
の平安は得られず、生きてい
る意味を見失い、生かされ
ている事実を忘れ、傷つけ
あつていることさえも気づ
かず、互いに孤立を深めてい
ます。

親鸞聖人は、世の中が移

り変わり、どのような境遇
にあつても、阿弥陀様の大悲
のお心に生きられました。
その聖人のおすがたに流れ
る阿弥陀様のお心を、自ら
の願いとして生き抜かれた
のが私たちの先人であり、
今の私に届いている南無阿
弥陀仏の歴史であります。

それは、思いを超えたは
かり知れないのちとの出
遇いであり、そのいのちの願
いに生きることが、苦悩の中
を生きる力となるのです。

時と処を超えて、人から
人へと伝わるともしびを、
「大悲に生きる人どあう
願いに生きる人となる」と
掲げ、このたびの法要をご
縁に歩んでまいりますよう。

日程《午前の法座》

◆八時三十分

団体参拝 受付開始
帰敬式(阿弥陀堂)

◆十時

勤行
御親教

複演(ご法話)

宗務総長あいさつ

記念口演

(浪曲「親鸞聖人物語」)

◆十二時

午前の法要 終了

日程《午後の法座》

◆十二時三十分

団体参拝 受付開始

◆十四時

勤行
御親教

複演(ご法話)

宗務総長あいさつ

記念口演

(浪曲「親鸞聖人物語」)

◆十六時

午後の法要 終了

◆十六時十五分

帰敬式(阿弥陀堂)

今日のおつとめ

法要十五分前 鳴鐘

法要五分前 喚鐘

◆法要

先、乱声

次、衆

次、伽陀(先請)

次、衆

次、表白

次、衆

次、四奉請

次、衆

次、行譜正信偈

次、短念仏

次、和讃

「恩徳讃」一首

次、衆

次、回向(願以)

次、衆

◆御親教

御門主様のお言葉

◆複演

ご法話

◆宗務総長挨拶

◆記念口演

「浪曲親鸞聖人物語」

玉川奈々福

復演布教使の紹介

第一期

◆十二日

大阪教区 最勝寺
中井 賢隆



◆十三日

大阪教区 高照寺
隅谷 俊紀



◆十四日

新潟教区 西照寺
原 泰雄



第二期

◆十九日

滋賀北教区 和光寺
菅原 良暢



◆二十日

東京教区 照明寺
近藤 正嗣



◆二十一日

大阪教区 浄方寺
門川 崇志



第三期

◆二十六日

九州教区 清立寺
藤代 尚



◆二十七日

中国教区 阿弥陀寺
大谷 義文



◆二十八日

新潟教区 法圓寺
梨本 哲哉



撮影：御堂義乗



曲師 沢村まみ



玉川奈々福

記念口演

玉川奈々福

浪曲

「親鸞聖人物語」

十八座すべて
唸らせていただきます！

玉川奈々福

玉川奈々福

浪曲師・曲師。1995年、二代目玉川福太郎に入門。三味線の修行をしていたが、2001年より浪曲師としても活動。2006年、芸名を奈々福に改める。様々な浪曲イベントをプロデュースする他、自作の新作浪曲や長編浪曲も手がけ、他ジャンルとの交流も多岐にわたる。平成30年度文化庁文化交流使としてイタリヤやポーランドなど7か国で公演。中国、韓国でも公演。第11回伊丹十三賞受賞。

帰敬式のご案内

法要期間中、午前と午後後に帰敬式（おかみそり式）を行います。お申し込みをされた方は、開式時間の15分前までに阿弥陀堂までご参集ください。

- 午前8時30分から
- 午後4時15分から

※いずれも阿弥陀堂にて行います。



記念展示のご案内

慶讃法会を記念して主に佛光寺が所蔵している法宝物を寢殿ホールにて展示しております。

みなさまどうぞご覧ください。

展示期間(令和五年五月)

- 第一期 十二日から 十四日
- 第二期 十九日から 二十一日
- 第三期 二十六日から 二十八日

入館時間

- ①八時三十分から
九時四十五分まで
- ②十二時から
十三時四十五分まで
- ③十六時から
十七時まで(最終入場)

閉館 十七時三十分
場所 寢殿ホール

■展示法宝物

《木像展示》

龍樹菩薩・天親菩薩・曇鸞大師・道綽禪師・善導大師・源信僧都・源空上人(各一軀)

聖徳太子孝養像(一軀)

《ケース展示》

法然上人授与五条袈裟(一領)
親鸞聖人御両親木像(二軀)
親鸞聖人御両親木像縁起(一通)
善信聖人親鸞伝絵(二巻)
室町古写本『教行信証』(八冊)
佛光寺蔵版『教行信証』

(四冊 天保十四年)
伝真仏上人六字名号(一幅)

伝日野有範筆和歌懐紙(一幅)

有栖川宮韶仁親王筆

『報恩講私記』(一巻)

法隆寺伝来 蜀江錦(一裂)

一流相承系図(絵系図二巻)

《壁展示》

真向聖徳太子孝養像(一幅)

聖徳太子垂髪太子像(一幅)

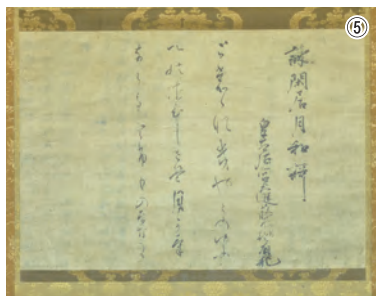
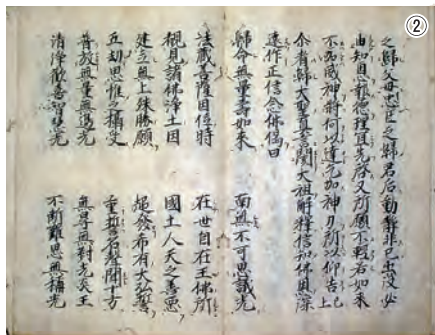
善導大師・法然上人二祖対面図
(二幅 光福寺蔵)

光明本尊(一幅 正嚴寺蔵)

四騎獅子狩文錦(西徳寺蔵)

聖徳太子絵伝(四幅 延長寺蔵)

舞楽幡・龍頭



撮影：藤森武

法宝物の紹介（一部）

- ① 善信聖人親鸞伝絵 二巻 紙本著色
卷子装 南北朝時代

親鸞聖人の伝記を描いた絵巻物。親鸞聖人の百回忌の縁に制作されたと見られる。

- ② 古本『教行信証』（佛光寺本）八冊
紙本墨書 室町時代中期

親鸞聖人の主著であり、立教開宗の根本聖典といわれる。

- ③ 法然上人授与
五条袈裟 一領 絹製

親鸞聖人が師・法然上人の室に入門されたときに相伝されたと伝わる御垢つぎの袈裟。

- ④ 聖徳太子孝養立像
南北朝時代 重要文化財

中興の祖・第七代了源上人が山科に道場を建立する際、発願し、仏師湛幸により開眼。

- ⑤ 伝日野有範筆和歌懷紙 一幅 紙本墨書 掛幅装
年代不明

親鸞聖人の父、日野有範のしたためた和歌と伝わる。

土曜日イベント

17時30分から大師堂にて

13日

記念講演会

(広宣会主催)

磯田道史(いそだみちふみ)



1970年岡山市生まれ。慶應義塾大学大学院卒。博士(史学)。茨城大学助教授、静岡文化芸術大学教授などを経て、現在、国際日本文化研究センター准教授。著書に『武士の家計簿』(新潮新書、新潮ドキュメント賞受賞、2010年映画化)、『近世大名家臣団の社会構造』(文春学藝ライブラリー)、など多数。『無私の日本人』(文春文庫)の二編「穀田屋十三郎」が2016年「殿利息でござる!」として映画化された。

20日

慈響

心に響く二胡とご法話

(勝友会主催)

姜 曉艷(ジャン ショウイェン)



中国大連市生まれ、5歳から二胡を学ぶ。医学博士であり二胡奏者。1997年来日。現在、二胡演奏はもちろん作曲、歌手、舞台監督など総合プロデューサー、またファッションデザイナーとして幅広いジャンルで活躍している。お釈迦様の慈悲の心を、二胡の音色とともに若い世代へ伝えるよう尽力している。国境を越え、民族を超え、言語を越えて「いのちの尊さ・平和への願い」、「慈しみの心・世界・響け」、「シルクロードく仏教伝来の道」をテーマに、アメリカや日本各地で数百回を超える仏教・医学の講演会や二胡コンサート、テレビ出演をされている。

27日

佛光寺 伝統声明を 聞く集い

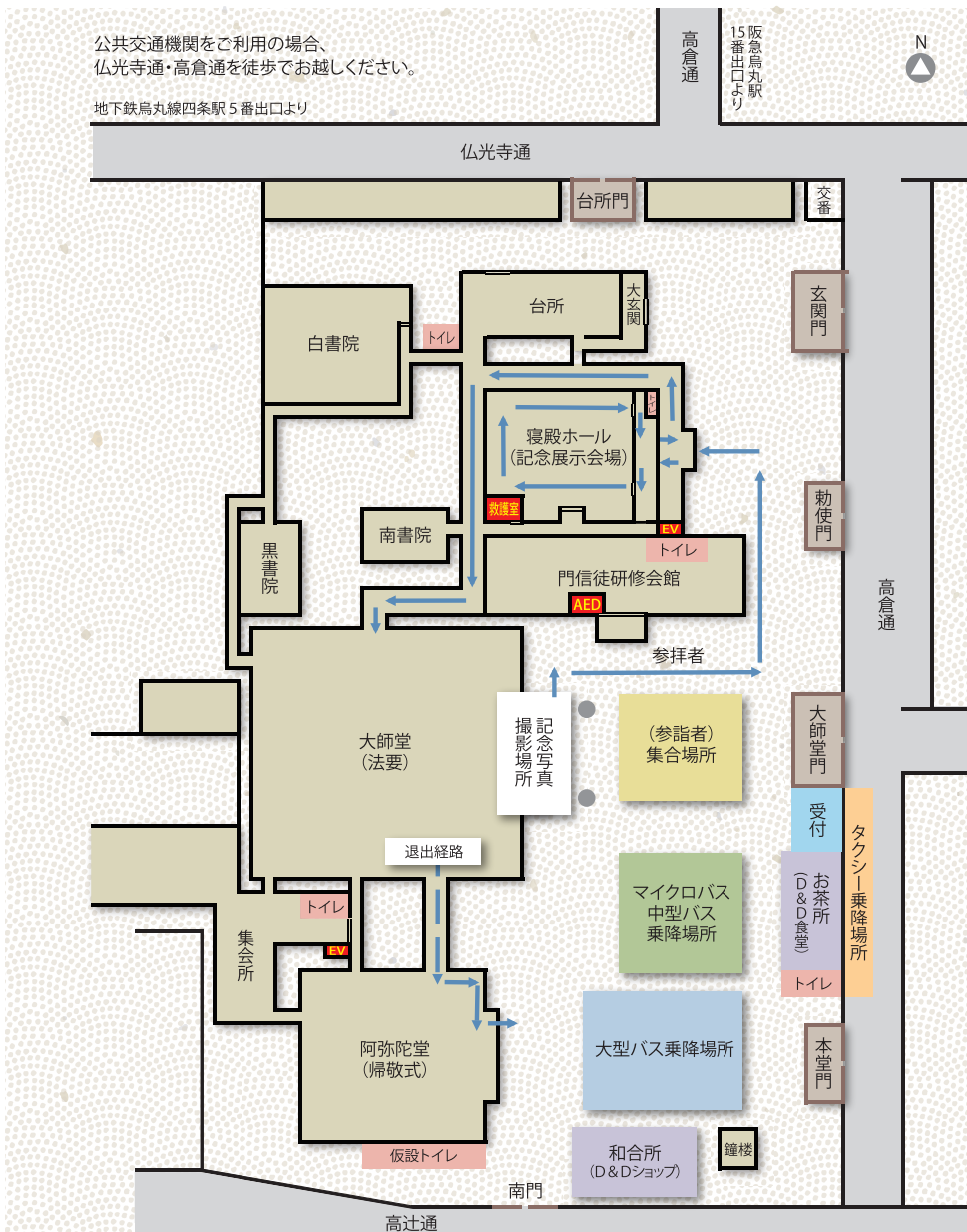
(龍音会主催)



佛光寺の声明は、天台魚山声明を源流とする本譜声明と、佛光寺で伝承されてきた御家流の声明とがあります。

当日は、はじめに法要形式をとり、御家流声明の中から稽首加陀・真譜正信偈・念仏・和讃一首・回向(世尊)をお勤めいたします。その後、本譜声明の中から仏名、御家流声明の中から真回向(ごまへきやう)をご披露いたします。

参拝経路図 [基本ルート]



《 佛光寺へのアクセス 》

- ◇ 京都駅からタクシーで10分(乗降場所は指定されています)
 - ◇ 京都駅～地下鉄烏丸線「四条駅」⑤出口より東へ徒歩5分
 - ◇ 阪急京都線「烏丸駅」⑤出口より南へ5分
- 〒600-8084 京都市下京区新開町397 TEL 075-341-3321(代表)

大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる

【本廟参拝のご案内】

本廟には、親鸞聖人の御真骨が納められた
御廟所おたまやがあります。
どうぞお参りください。

「アクセス」

四条駅（地下鉄烏丸線）▼
御池駅（地下鉄東西線に乗り換え）▼
蹴上駅…徒歩（5分）…佛光寺本廟

